総会の思い出

Recollections of the JMLA Meetings of the Past

東京女子医科大学図書館

梅枝軍二*

昭和2年(1927)に協会が官立医科大学附属図書館協議会という名称で創立されてから今年で50年を経過し、その記念すべき総会が順天堂大学を当番館として開催されることになった。

私は昭和24年第20回総会が名古屋大学で開催されたとき初めて出席、以来昨年の鹿児島総会まで28年間にわたる総会に出席の幸運に恵まれ今日に至っている。その間昭和32年には創立30周年記念式典をかねた第28回総会の当番館を経験することができた。

記録によれば、創立当初の加盟館は僅かに5館、会議出席者8名であったものが、現在では加盟館85館、総会出席者は約200名の多きに達しているが、今後新設未加盟の医歯大も何れは加盟し、100館になるのも左程遠いことではあるまいといわれている。

初めて出席した20回大総会の記念写真を見ると、今ではもう1名の現役での総会常連は見当らず、既に黄泉の客となった何名かの先輩同僚の顔も見えて感慨一入、私もまた現役とはいえない境遇にある。

この28年間の総会に出席し、じかに感得した記憶を辿ると、なかには既に忘却の彼方に流れ去ったことなども多いが、医学図書館に籍を置いたわが人生の30歳代から60歳代の今日までの人生記録とともに、いろいろのことが走馬灯のように浮んでくる。

協会の歴史的展望——正史については他に書かれる適当な方もあろうかと思われるので割愛し、余り記録に出していないことの追憶にふけることにしよう。

総会出席の楽しみは年1回全国の同志が一堂に会しての協議であることはいうまでもないが、附随して次のような楽しみが挙げられる。①開催地が未知の地であると

き。従って、その近辺の観光をすること。②年1回総会常連の元気な顔を見ること。③司書が同じ宿に泊って胸襟を開いて夜を徹しての談笑。④司書会食、懇親会等。

司書会食は出席者の増加に伴う経費等の関係から今では姿を消し、最近出席の方はご存知ないと思うが、この会食の発想は当番館の厚意によりプロフェッショナルな司書の日頃の労をねぎらうために催されたもので、記憶では26回徳島総会頃に始まり37回札幌総会が最後であったように思う。また、この会食は徳島、群馬、東女などを除いては当番大学内で行われることが多かったが、そこでは余り騒ぐ訳にも行かないので、宿に帰っての二次会、三次会的な夜を徹しての語らいに発展するのが常であった。宿では各室毎に入口に宿泊者の大学名と氏名が貼り出されていて、誰が何処に泊っているかがすぐ判る仕組。同じ道を歩む仲間同志の気安さから、うちくつろいで歌や踊り、隠し芸が披露された。今でも強く記憶に残っている方に徳島での東大高杉司書の尺八と三味線の演奏がある。何れも相当の年季が入っていると見受けられたが、とりわけ三味線では芸者が弾けずに困っていたのをすぐ取りあげて弾きこなしたのは見事であった。その後の総会にも高杉先輩はいつも尺八を携行しておられた。

北大斉藤司書(故人)は大陸仕込みのダンスの名手で会食、二次会等では芸者と楽しく踊り、踊れない私達を羨しがらせたものである。

群馬での会食は今でも前橋一流の料亭の舞台つき部屋で行ったが、名大小木曾司書は芸者の三味線と唄に合わせて踊りを披露、前橋芸者の人気を一人占めたものであるが、それから先はどうなったか当番館の責任外で知るよしもない。これまた相当の年季もの、その後もたびたびの会食で踊りを披露するのが常であった。

東女での会食は今も新宿三光町の角にある水たき料理の「玄海」であった。この時も歌や踊りでずい分騒いだ。

* Gunji UMEGAE : Tokyo Women's Medical College Library

(昭和52年7月25日受理)

が、私もついづられて見よう見まねの下手な阿波踊りを踊った。毎年司書会食で行われていた郷土みやげ品の交換会はこの時から廃止されたという。それは回を重ねるにつれて新味がなくなるとともに、品物の選択も次第に煩わしくなってきたことによるという。

この郷土みやげ品の交換会は廃止されたが、総会のつきものに各書店等から寄贈される記念品やみやげ品があった。これには各社ネーム入りのタオル、肌着、靴下、ライター等々、時には中身が男女別々のこともあり、受付をすまして会場に入ると各自の席に置いてあった。宿の浴場で同じ肌着、同じタオルで間違えることもあったようだ。このみやげ品のため宿に帰ってからの荷物整理が大変で、ボール箱や紙屑が部屋に山積されることが多かった。ただ、いつも嫌われるのがカタログ、目録等の印刷物で、重いしかさばるので特別のものを除いて紙屑とともに捨てられる運命をたどった。

単に会食に限らず総会では、いつも一人や二人の人気者がいるもので、札幌木田橋司書や広島小坂司書(故人)などはなかなか朗らかな方で緊迫した会議の空気を笑いに誘う人柄であった。

然し、図書館人は概して真面目で、仕事の話を着に夜を徹して飲んでいる方が多い。この代表的な方に山口木村司書や福島丹野司書(何れも故人)、現役中にも北に南に何名かの顔が浮ぶが、私も深更までおつき合いすることが多かった。

奈良総会での司書宿舎は檀原会館であったが、私はたまたま金沢三宅司書と監査であったので翌日の会議に提出する予算案の作成・修正に東大中里、新潟中山、医歯大両宮各理事と深更までかかったことがあったが、今から思うと実にのんびりした時代であった。

次に、観光・懇親会では、27回北大総会のため初めて津軽海峡を渡り北海道の土を踏んだ時の印象は強烈であった。この時の懇親会は月寒牧場での野外デングスカン料理、観光は道東と道南の2班に分れ、私は道南バス旅行に参加した。札幌郊外の定山溪温泉を過ぎ中山峠、洞爺湖、昭和新山の景観はすばらしく、夜は登別温泉第一滝本館泊り。ここの浴槽は当時日本一のスケールを誇り週刊誌などで盛んに宣伝されていたが、入口こそ男女別々であるが中は混浴、3ツ程の大きな浴槽に、もおもおとたちこめる湯気は入浴者の視線をさえぎり、混浴といっても少しもおかしきにはなかった。誰だったか今はもう名前を忘れたが、翌朝のバス出発時間になっても一人だけ足りず案内の当番館を心配させたが、後で聞くとこ

によれば浴槽で、もおもおたる湯気の晴れ間の女性美をたっぷり観賞していたということであった。

28回群馬では30周年記念式典をかねて行われたが、緒方会長より余り派手にやると後に続く当番館がやりにくいので自粛するようにとのご指示があった。このことを大学に帰って上司に伝えたところ、何も前例にこだわらず各館マイペースでやればよく、どうせ君の一生一回の当番館だからできるだけ盛大にやれ、学部事務の全力をあげて協力するからということであったので私は上司の指示に従った。受付案内は庶務、会計は会計、懇親会は教務学事の各係長があたり、30周年記念行事の一つとして行われた古医書展示会は慶応大島先生、横浜石原先生に依頼して集めたもので、中には日本に一点しかない貴重なものもあったので夜は盗難防止に不寝番をおいた。記念品の文鎮は私がデザインして館長、会長に見てもらい、制作は工学部に頼んで作ってもらったが、出席者だけにしか配れなかった。なお、当番館に対する協会の補助金はこの時の総会で決り翌年より実施、当時既設の医大(医学部)46館全部の加盟が実現したのも群馬総会であった。

懇親会は、当時前橋にはホテル等の大きな施設はなく市の公民館を借り、本場八木節を披露するとともに、前橋芸者を人選してサービスにあたった。観光は伊香保、草津温泉各一泊、浅間山麓を巡って、軽井沢解散であった。当時、当番館を引受けると主任司書は約2〜3kgは完全にやせるといわれ、私もまたそうであったが、最近の当番館主任司書諸兄はどうであろうか。

続く29回名市では、徳島、北大、群馬に負けじと経費集めに大分努力したようで、観光は三河湾沿いの三谷温泉富貴館宿泊、30回九大は阿蘇観光、31回東医、36回東女の懇親会場は椿山荘であった。今ではもう珍らしくもないが当時としては全くの“珍山荘”で抜群の会場、東医原館長、東女吉岡館長の出席者を歓待する熱意が偲ばれた。

34回弘前での司書宿舎はスキー場で有名な大鰐温泉、懇親会は弘前美人芸者を揃えての銀行クラブ庭園での野外パーティー、観光は十和田湖周遊であった。林檎林が連なる十和田八幡平国立公園の景観、紅葉にはまだ早かったが十和田湖巡り、奥入瀬溪流、酸ヶ湯温泉付近からの八甲田山の遠望、道路脇に立つ積雪標識を見ては、かつての青森連隊の雪中遭難に思いを馳せるなど、竹森主任の総会にかけた心意気とともに忘れたい思い出である。

35回広島は、比治山公園 ABCC (RERF) の見学、牛場会長の流暢な英語挨拶をききながらの市街展望、名勝縮景園、平和記念公園を見て厳島神社詣で、錦帯橋下での昼食であった。終戦直後の焼野原と化した市街を見た目に見事に復興した新生広島市、日中事変から第二次大戦にかけての数年間を南中国、北ベトナム、比島、インドネシア等の戦場を一兵士として過ごした身には、原爆ドーム、慰霊碑、資料館の観覧は複雑微妙な気持ちを抱かせた。

38回久留米、40回和歌山を最後に当番館による観光案

内は消滅した。今はもう誰でもが国内ばかりか外国まで気楽に出かける世の中、宿舎のホテル化、出席者の増加等を考えると当然のなりゆきといえる。思えば古き良き時代だったといえよう。

それにしても、加盟館の増加にもかかわらず年々協議題が少なくなるのはどうしたことか、従来どおりの総会のやり方は転換の時期に立ち至っているようだ。次代を荷う若い世代の医学図書館人の活躍を期待して老兵は去ってゆこう。

◇ 相互貸借マニュアル

相互貸借業務必須のマニュアル。

日本医学図書館協会における申込の手続き(国内、国外)、書誌事項の確認、テレックスによる相互利用等を具体的に説明。

サンプル 20枚

付録：各種資料案内

ルーズ・リーフ

1976発行 1977改正

¥ 2,200

申込、問合せ先

113 東京都文京区弥生 2-4-16

学会センタービル内

日本医学図書館協会

TEL: 03-815-1942 振替: 東京6-49585

取引銀行: 三井銀行上野広小路支店 普通預金(口座番号) 158-376